

●工事の概要

永山城跡は「史跡」という文化財に指定されているので、石垣修復については、伝統的な工法により被災前の姿に戻すことが大前提です。今回の崩落の直接的な原因は地震ですが、その他に次のような石垣崩落につながる要因が工事の過程で明らかになりました。

- ①石垣の裏側の構造の劣化…裏込め石が小さい。裏込め石の間に土が流入して目詰まりを起こしている。
- ②石垣上の樹木の影響…根が伸びて石垣の裏から石材を押し出す。風や地震による幹の根れが石垣に伝わる。

今回の復旧工事では、このような要因を取り除き、石材が元々あった位置ができる限り特定し、元の位置に戻すことで文化財的な価値を保つことを目標としました。また石垣の内部構造では、近年福岡城や唐津城などで発見され、振動の吸収効果が期待される「大きめの裏込め石を列状に並べる」方法（裏面工事図面の赤部分）を取り入れ、「より強い石垣」を目指しました。



1工区裏込め施工状況



2工区裏込め施工状況

●工事に伴う発掘調査の概要

1工区の復旧工事では石垣の裏側を大きく削削する必要があるため、石垣9・10の上面に檜や柳などお城だったころの遺構が残っているか確認するための発掘調査を行いました。しかし石垣9・10は、石垣の積み方を観察するとこれまでに複数回の積み直しが行われていることがわかつており、そのたびごとに石垣上面も整え直されたり、また公園の整備が行われる中で削られた可能性があり、お城の遺構は見つかりませんでした。

また、1・2工区とも、石垣の裏込め石やその背後にある背面盛土の状況の確認も行い、次のことことがわきました。

①1・2工区とも裏込め石はこぶし程度の小さな丸石を基本としていたため、水はけを良くしたり、振動を吸収するといった役割を十分果たしきれなかった。

また、裏込め石が水平ではなく築石側面に傾いていたため、力が築石側によりかかりやすい状態だった。

②背面は地中が風化した「灰土」でできているため、粘りや綿まりが弱い。

③裏込め石や背面盛土中からは古墳時代から現代までの遺物（須恵器・土師器、陶磁器、瓦、ガラス製品、プラスチック製品）が出土しており、石垣表面の觀察から推定されていた「複数回の積み直し」を裏付けるものとなった。



●月限山の沿革

約9万年前
阿蘇の噴火に伴う火砕流堆積物と河川作用によって月限山が形成される。

6世紀後半（古墳時代）～8世紀（奈良時代）
横穴墓として利用される。

慶長6年（1601）

小川光氏が丸山城を築き、丸山町成立。

（後に丸山城→永山城、丸山町→豆田町に改称）

寛永16年（1639）

永山城南側に日田御役所（永山市政所）が設置される。

同時に永山城廢城か。

文化3年（1806）

郡代羽倉権九郎、参道に鳥居設置。

文化15年（1818）

参道抜幅時に横穴墓から人骨出土、供養のために御安碑（撰文：廣瀬淡窓）を建立

明治4年（1871）

鹿瀬郷は日田県が置かれ、般地内に日田県庁と県知事官舎が建てられる。

昭和19年（1944）

小倉陸軍造兵廠として特殊地下壕がつくられる。

平成20年（2008）～

発掘調査実施、さまざまな成果が得られる。

平成28年（2016）

2月23日 大分県史跡に指定。（指定面積32,335.32m²）

4月16日 未明の地震（日田市の震度5強）により石垣崩落。

平成29年（2017）

災害復旧工事開始

平成31年（2019）

災害復旧工事竣工予定 ※石垣修理は平成30年度に終了

●平成28年熊本地震による被害

前震（4月14日午後9時26分、日田市最大震度4）では特に被害はありませんでしたが、県史跡指定からわずか2ヶ月後、4月16日未明の本震（北東方向に震度5強の揺れ）を受け、大手石垣（1工区若しくは石垣9・10）と伝天守跡石垣（2工区若しくは石垣2）の各一部が崩落しました。特に石垣10の石材は土砂を伴って公園遊歩道入口近くまで崩落し、鳥居や石灯籠を破壊しておびただしい数の石材が遊歩道をふさいだ状態になりました。

■今回の石垣崩落規模

・大手石垣（石垣9・10）の一部 幅約10m、高さ約6m

・伝天守跡石垣（石垣2）の一部 幅約 7m、高さ約3m



被災前の遊歩道（平成 22年）



被災直後の遊歩道（平成 28年）

史跡永山城跡 災害復旧工事



被災前



被災直後



工事中



石垣修理終了

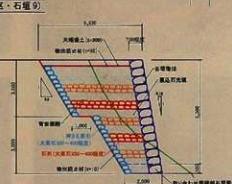
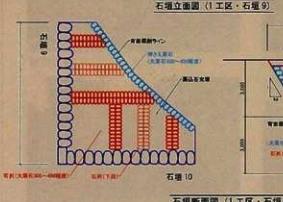
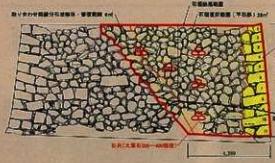
●史跡永山城跡の概要

花月川北岸、阿蘇溶結凝灰岩（約9万年前の阿蘇山最大の噴火による火砕流堆積物でできた月限山と呼ばれる独立丘陵）にある平山城で、17世紀初頭に小川光氏により築城されました。17世紀中ごろ、島原の乱（1637年）を受け、幕府の支配体制強化策として永山城の南側に日田御役所（永山市政所）が設置されるとともに、永山城は政治的役割を終えて廢城となったとされ、お城としての存続期間はわずか40年程度と考えられています。ただしその後も無数の代官・郡代の管轄を受け、神社が勧請され、私塾成寅岡を開いた廣瀬淡窓とその門下生がたびに遊学に訪れるなど、日田あるいは豆田のランドマークとして親しまれていたようです。

日田市教育委員会では、平成20年度以降発掘調査を行っており、月限公園内のいたるところにお城の痕跡が残っていること、本丸には建物の礎石が現存していること、瓦葺きの大手門が存在していたことなどを確認されています。

石垣に大きな川原石をそのまま用いることは永山城の最大の特徴といえます。豆田町に現存する江戸期の建物の基礎構造にも大きな川原石が使われており、身近にあらすことのできる材料をうまく活かすという、当時の日本の建築技術の特徴が表れています。これらのことや、発掘調査の結果が文献・絵図と一致していることが永山城の価値として認められ、平成28年2月23日に大分県史跡に指定されました。

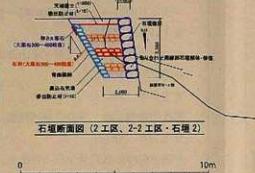
史跡永山城跡指定範囲（赤部分）



石垣立面図(1工区・石垣10)

1工区の裏込め施工状況
石垣修理工事図面(1/200)

※石垣10と2は被災前に固化を行っていないため、範囲のみの図示となっています。



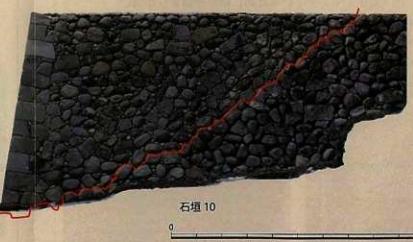
被災箇所と工区配置図(縮尺任意)



石垣2



石垣9



石垣10

石垣の被災前(上段)、被災直後(中段)、竣工後(下段)の様子

竣工後の石垣(赤線が積み直し範囲)(1/150)